

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	李 亜 姣 【ジェンダー学際研究専攻 2014年度生】	<p>2010年、中国のGDPは日本を上回り世界2位となった。中国経済の高度成長は、固定資本投資の異常ともいえる拡大によって実現している。その陰で、固定資本投資の対象である土地収用はさまざまな矛盾を中国社会にもたらした。農村では、「村憲法」により、その村で生まれ、結婚した女性たちが土地をめぐる権利を奪われた。彼女たちを農嫁女と呼び、その土地所有権の剥奪や生存を脅かす深刻な状況を農嫁女問題と言う。本論文は中国経済の成長と共に、農村において土地所有権が剥奪されていく理由を、資本の本源的蓄積論に関する最新のジェンダー的批判理論を駆使して解明したものである。</p> <p>研究方法は文献研究とインタビュー調査を用いた。本論文で明らかにされたのは以下3点である。①村民委員会による「村憲法」作成の過程で、国家は地方政府と共に「夫方居住婚」を理由に女性排除の集団経済組織の存在を認め、正当性を与えた。②土地私有化の深化は集団経済組織によるもので、それは資本の本源的蓄積の末端組織となりつつある。③土地略奪の二重構造（土地収用と集団組織構成員という名の下での農嫁女の土地権利の略奪）は本源的蓄積の核心的な部分であり、「夫方居住婚」という家父長制＝ジェンダー秩序の再編成を含んでいた。</p> <p>博士論文審査委員会は2019年7月9日、7月26日、9月4日の3回開催された。第1回、第2回審査委員会では、本論文中で扱った文献研究、インタビュー調査結果と資本の本源的蓄積の関係性について、より詳細に分析を行う必要があることが求められた。申請者は再度、結果を見直し、修正と加筆を適切に行なった。</p> <p>公開審査会及び最終審査会は9月4日に開催され、公開審査会における申請者の報告はわかりやすく整理されており、現代中国経済を理解するための多くの知見を含んでいることが評価された。報告後の質問やコメントに対しても適切に応答した。以上の審査プロセスより、審査委員会は本論文が本大学院人間文化創成科学研究科の博士学位として合格水準に達していると判定し、博士（社会科学）（Ph. D. in Political Economy and Gender Studies）の学位を授与することを全員一致で決定した。</p>
論文題目	現代中国の高度成長とジェンダー ——農嫁女問題の分析を中心に	
審査委員	(主 査) 斎藤 悦子 准教授	
	(副 査) 申 琪榮 准教授	
	(副 査) 大橋 史恵 准教授	
	(審査委員) 棚橋 訓 教授	
	(審査委員) デ アウカンタラ マルセロ 准教授	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	